

協働の指針 第5章（素案）

第5章 取り組み

- ◆知っていることや得意なことを発揮する(してもら)場を作っていこう。

自身や周りの人たちが経験やノウハウを生かしてさまざまな活動を行ったり、また、参加しやすくするためには、それを発揮できる環境作りが大切です。

- ◆最大の情報発信の手段の一つである口コミを広げよう。

自分の周りへ情報を発信することにより、そこから更に人から人へ情報が広がっていきます。まずは対話を始めることからスタートです。

- ◆広く情報発信・収集を行っていくため、SNSも学び活用していこう。

いつでもどこでも最新の情報を、一度に多くの人に伝えることができるSNS。使い方を知りどんどん活用して慣れると、情報発信力が伸びていきます。

- ◆課題解決に向け気軽に相談できる場所を、伝えていこう。知ってもらおう。

いつでも相談できる場所を多くの人に知ってもらうことで、誰でも気軽に利用でき、困っていることを抱え込まない環境が生まれます。それが課題解決の糸口につながります。

- ◆活動を行いたい人を手助けする仕組みや行いやすい環境を作っていこう。

これから活動をしようとしている人や今、活動を行っている人が新たな取り組みを行うとき、活動を応援する仕組みや環境があることで、多くの協働が生まれやすくなります。

- ◆阪南市のまちづくりをみんなが我が事として捉えていこう。

まちづくりには、行政だけで担えるものでなく、市民等だけでも出来ないため、他人事と思わず、一人一人が協働の担い手となる事が大切です。

◇部会員の意見

- ・ノウハウを有している人材をどのようにして巻き込むかが大事。
- ・講座を開催しても、参加者が少ない。
- ・相談場所があることを知ってもらう必要があるとともに、周知を行う場所を新たに発掘していく必要もある。
- ・様々な団体(主体)が集まれる場所が必要。
- ・今の世の中、SNSを活用しての情報発信が多いが、SNSの利用方法が難しい。活用できれば、情報発信や収集に役立つ。
- ・課題の共有ができてはいるが、課題解決までの道が見えない。
- ・活動を行いたい人をしっかり支援する仕組みも大事。
- ・行政(公)だけでなく、市民等(民側)の取り組みも必要。